

子どものジェンダー意識を形成するきっかけは何か

家庭科班: 上田 紗瑛、畑 明日嘉、結城 真菜

要約

本研究の目的は、ジェンダー意識がどのようなきっかけで形成されるのかを明らかにし、ジェンダーフリーの考えに応用することである。調査によって、色分けや服装が大きく影響を与えていることが分かった。そしてそれらは、多くの場合は親や幼稚園教諭によって意識付けられたものである。従って本研究では、大人の言葉や対応はジェンダーを意識させる要因であるということが結論付けられた。

1. はじめに

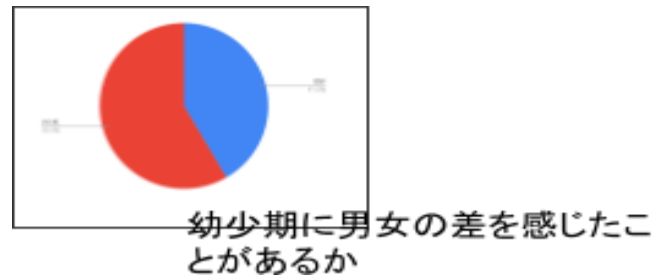
今日、SDGsの世界を変える目標であるジェンダー平等を目指して数多くの取り組みが行われている。そこで私たちはジェンダー平等に貢献したいと思い、子どものジェンダー意識が形成されるきっかけを知り、幼少期に生きづらさを感じないようにするための環境づくりを今後どのように行っていくべきかアンケートを基に考えた。今回、「性同一性障害と思春期(著者中塚幹也、平松裕司)」での調査では性別違和を感じた時期として就学前が最も多かったためその時期に焦点を当てて研究を行った。この時期は幼稚園や保育所など家族以外にも関わりを持ち始めるため、周囲の大人の言葉や対応によってジェンダー意識が形成されるのではないかと仮説を立てた。

2. 研究手法

高津生1,2年生149人にgoogleフォーム又はアンケート用紙を用いて4つの質問に答えてもらった。

《実験》

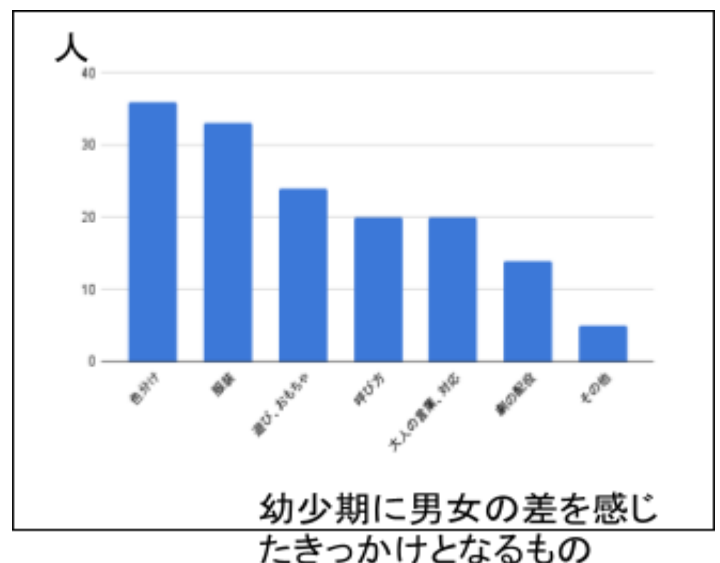
質問の1つ目では「幼少期に男女の差に違和感を感じた事があるか否か」を聞き、2つ目では1つ目の質問にはいと答えた人に限り「違和感を感じたきっかけ」を服装、色分け、劇の配役、遊びやおもちゃ、大人の言葉や対応、呼び方の6つの項目の中で該当するものを選択してもらった。3つ目では2つ目の質問の答えを具体的に記述してもらい、また1つめでいいえと答えた人には「どのようなきっかけでジェンダー意識するか」を書いてもらった。4つ目の質問では今までのジェンダー意識において変化したとを感じる点について記述形式で答えてもらった。



3. 結果

《実験》

①の幼少期に男女の差を感じたことがあるかどうかについては「はい」が41.6%、「いいえ」が58.4%といった結果になった。②の幼少期に男女の差を感じたきっかけとなるものについては「色分け」が23.7%、「服装」が21.7%、「遊び、おもちゃ」が15.8%の3項目が上位を占めた。③では男子はズボン、女子はスカートという回答や男子は青、女子はピンクといった回答が多く見られた。また、男子は外遊び、女子は室内遊びという回答も見られた。④で「ちゃん」、「君」から「さん」に統一されているという回答が多く見られた。



4. 考察

ジェンダー意識を形成するきっかけとして色分けと服装、呼び方が上位に入っていた。しかし、幼少期から今までで変化した点でも上位に入っていた。このような結果になったのは、制服やランドセルなどの学校から指定されるようなもののバリエーションが豊かになったからではないかと考える。

5. 結論

周囲の大人の言葉や対応は、ジェンダーを意識させるきっかけの大きな要因として顕在していることが明らかになった。今後の展望として、本研究ではアンケート調査の母体数が少なかったため、母数を増やしての調査、またジェンダーフリーの考えが導入されているものを分析し、まだ考導入が不十分なものに应用していくことが必要である。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

「性同一性障害と思春期」(著者:中塚 幹也 平松 裕司)

<https://www.jschild.med-all.net/Contents/private/cx3child/2016/007502/007/0154-0160.pdf>